

こうか
まちかど特派員



まつだ
松田
てるよ
晃余

こうか
まちかど
特派員
のページ

伊賀のくみひも 伊賀市

～繊細で色あせない魅力～



伝統の技を活かしたストラップやキーホルダー(上)と、帯締などの和装小物(下)

伊賀くみひもの始まりは古く、奈良時代以前にまでさかのぼるといわれています。古くは仏具や神具、甲冑や刀剣などの武具に使われていたくみひもが伊賀で本格的

に発展したのは明治中期です。伝統的な組台で、絹糸・生糸・金銀糸を使用して作るくみひもは美しく、最近では伝統の技を活かしたストラップやキーホルダー、アクセサリーなど、現代雑貨も作られています。帯締などの和装小物をはじめ、古くから親しまれてきた伊賀くみひもは、昭和51年に経済産業大臣が定める「伝統的工芸品」に指定されています。

問い合わせ
問 0595-431-2309
商工労働観光課

亀山みそ焼きうどん 亀山市

～食欲をそそる香ばしいピリカラ味～



古くから交通の要衝として栄えてきた亀山市。「みそ焼きうどん」は、国道を行き交うトラックの運転手のお腹を満たそうと、ある店が考えたのが始まりといわれています。秘伝の赤みそダレに、豚肉、キャベツ、うどんを入れたご当地グルメで、各家庭でも愛されてきました。近年、まちおこし市民グループ「亀山みそ焼きうどん本舗」の活動により知名度もぐんぐん上昇。市内約30店舗で独自の味を楽しめます。

11月に開催された「第6回B級ご当地グルメの祭典! B-1グランプリin姫路」に出展し、全国に広がりを見せる「亀山みそ焼きうどん」。食べ歩きマップを片手に、味くらべしてみませんか。
問い合わせ
問 060-8550-8318
亀山みそ焼きうどん本舗
http://kirkame-sakura-ne.jp/misoyaki/
※食べ歩きマップをダウンロードはこちら
市民部市民相談協働室
0595-84-5079

問い合わせ 甲賀市広報課 ☎65-0675 ☎63-4619 伊賀市秘書広報課 ☎0595-22-9636 ☎0595-22-9617 亀山市広報秘書室 ☎0595-84-5022 ☎0595-82-9685



作陶の様子を真近で見学

お伺いしました。この日、市の呼びかけで同時開催された「信楽焼再発見まち歩きツアー」に同行させていただきました。市内外からたくさんの方々が秋晴れのまちなかを歩きました。同じ市内でもなかなか信楽へ訪れる機会がないから今回参加したという方もいらっしゃいました。実際にろくろを回す仕事風景や、陶器が焼かれる大きな窯を目の当たりにし、参加者みな興味津々。初め

の住む地域の再認識としていい機会になったようです。このイベントは窯元のみならず、信楽で活動する団体や住民の協力で運営がこなわれています。インフォメーションは信楽内にある2つのボランティア協会が担っています。また同じ信楽町内の黄瀬や朝宮からも、おもてなしの店舗が出店されました。信楽全体でイベントを盛り上げ、お客様を迎え入れる、これからの信楽があるべき姿を伺い知ることができました。今回目の試みとして散策路のナイトウォークも行われました。散策路の道沿いに透光性の器やカップに入れられたろうそくが置かれたり、登り窯の周りを300ものろうそくの光が灯したりと、また新たな散策路の表情が浮かび上がりました。今回は散策路の一部でしたが、散策路全体を囲むようにろうそくの光を広めたい、そんな意気込みも浮かげました。29日にはろうそくの明かりで灯された登り窯を舞台上、ジャズライブやお酒の宴、そのお酒にあった料理でもてなす夜グータン

も開催されました。幅広い世代が集まり時間や空間を楽しんでいました。様々な可能性を見出した今回の町歩き、今後まだまだ散策路は進化を続け、信楽の魅力を発信し続けていくことでしょう。イベントとして今回行われた町歩きですが、信楽のまちなかは普段でも訪れる人を歓迎します。ぜひ一度、物作りの現場を見に信楽をおとずれてはいかがでしょうか。



登り窯をバックに行われたジャズライブ

やきものの町・信楽の日常の中の
非日常を感じて…「ぶらり窯元めぐり」

少しずつ秋の深まりをみせる10月最後の週末に、信楽町の窯元散策路各所で「ぶらり窯元めぐり」が行われました。このイベントは「そこに住んでいる人にとっては日常であっても、訪れる人にとっては非日常の発見がある、日常の中の非日常を感じに訪れていただきたい」をテーマに掲げています。当初4月

に開催予定でしたが、震災の影響から順延され秋の開催となりました。この企画は長野地区の窯元18社からなる窯元散策路の「wa」が企画運営をおこなっています。消費者である私たちが普段見ることのできない陶器作りの現場を見ながら町歩きを楽しむことができます。私は開催2日目の29日に取材に

の住む地域の再認識としていい機会になったようです。

お伺いしました。この日、市の呼びかけで同時開催された「信楽焼再発見まち歩きツアー」に同行させていただきました。市内外からたくさんの方々が秋晴れのまちなかを歩きました。同じ市内でもなかなか信楽へ訪れる機会がないから今回参加したという方もいらっしゃいました。実際にろくろを回す仕事風景や、陶器が焼かれる大きな窯を目の当たりにし、参加者みな興味津々。初め

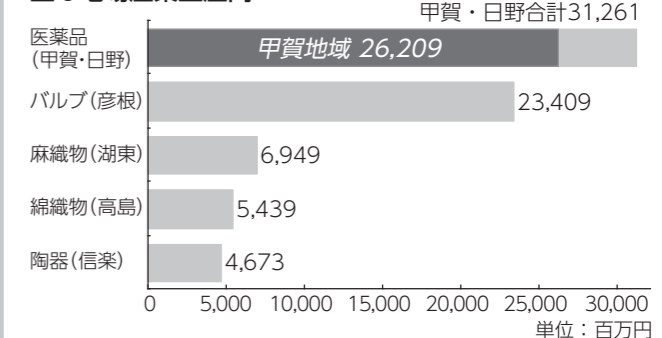
連続シリーズ 統計からみる
甲賀市 なんてモランキンク。 その6

甲賀の薬は県内地場産業生産高ナンバーワン

滋賀県には9つの地場産業の産地が形成されており、甲賀・日野地域の製薬産業もそのひとつです。甲賀の薬の歴史は長く、忍術の極意書「万川集海」に忍者たちが薬草を育て、独自に加工し様々な生薬を生み出していたことが記されているほどです。

甲賀・日野地域を中心とした地場製薬企業の医薬品生産額は順調に伸びており、平成21年の生産高は312億円でした。その生産額の80%以上を占める甲賀市は、滋賀県内の地場産業生産高でトップの位置にあるのです。

主な地場産業生産高



平成21年滋賀県事業工業生産動態統計、滋賀パルプ協同組合、湖東繊維工業協同組合、高島繊維工業協同組合、信楽薬業試験場・信楽陶器工業協同組合資料による

問い合わせ 総務課 ☎65-0663 ☎63-4561